

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500164		
法人名	社会福祉法人光総会		
事業所名	ぐるーぷほーむやすらぎ		
所在地	熊本県天草市五和町御領6447番地		
自己評価作成日	平成25年8月23日	評価結果市町村受理日	平成25年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年10月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各委員会活動を実施している。①虐待・身体拘束予防、②事故・ヒヤリハット・感染予防、③OJT・職能向上、④月行事対応、⑤認知症変化確認委員、⑥服薬管理委員会の各担当者を決めて、各委員会の活動内容を詳しく決めて対応をしている。毎月管理者が内容を確認している。毎月職員会議で各月の強化月間のテーマを決め実施している。個人の利用者様の不穏や拒否に対する対応が柔軟にできていると思われる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔ながらの町並みが残る地域の中で、入居者がホーム名でもある『やすらぎ』の日々を過ごす事ができるようこの一年、委員会活動の充実に努めた他、家族参観や勤務形態別のユニフォーム着用など新しい試みが取り入れられている。この事は職員のケアに対する意識を更に向上させ、本人・家族の思いに応えるホームとなるよう職員が志を一つにする機会に繋がっている。また、新しい取り組みに加え、地域商店や食事処の利用、住職による講話など継続された地域との関わりも入居者にとって何よりの『やすらぎ』の時間の一つとなっている。管理者は母体医療機関と連携し、常に入居者の為にできる取り組みを模索しながら自身も日々研鑽に励んでおり、今後も変わらぬ町並み、馴染みの職員によるケアが継続されていく事に期待したい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を皆で創り、事務所の壁に貼っており、毎朝の申し送り後に職員は唱和をしている。そして、理念に基づいた対応に努めている。	地域密着型事業所としての意義を踏まえ、ケアの規範となるべく内容が盛り込まれた四項目の理念が作成されている。理念は事業内の掲示をはじめ、ホームパンフレットには一面に記され利用者・家族へ説明している。管理者は研修会の中で入居者の尊厳に配慮して、理念に込められた思いを共有しながらケアにあたる事を指導し、この一年職員の異動も殆どなく、安定したケアに繋がっていると語っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月行事検討・地域ふれあい委員が天草市の広報を確認し、地域の催し物に参加できそうなものは参加している。そして委員会ファイルに記録を取っている。夏祭り参加、家族会の開催、お盆のお寺参り。	地域交流を深めるために配置された担当委員は広報誌や職員からの情報を収集し、実践に繋げている。食事処や商店、美容院などの継続した地域資源の活用や地区の敬老会への参加など、多くの取り組みが聞き取りや記録からも確認された。また、中学生の福祉体験や一階のふれあいホームの開放など個人情報や守秘義務遵守の上で地域貢献にも努めている。このことはパンフレットにも記し家族への理解・協力を繋げている。	管理者は地域の方々との交流を更に深めたいと語っており、ホームの特性を活かした今後の取り組みに期待がもたれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	7月に家族介護教室、8月にシルバーヘルパー講演、9月に五和中学の福祉体験学習を実施しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の実施をしており、利用者様家族に参加いただき、意見をきいている。ヒヤリ・ハットの意見などを聴いて助言を仰ぐことがある。	定期的開催される会議は、地域代表者や行政、家族・法人代表者などをメンバーとして隣接する多機能ホームとの合同で開催されている。入居者の状況や活動報告をはじめ、ヒヤリハットや職員体制、改善事項の報告など透明性のある会議となっている。参加されない家族への共有として事務所カウンターに記録を開示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族からの要望に対処できないときは市の担当者に相談している。天草市五和支所より、担当の方が時々、運営推進会議に参加されている。7月の集団指導への参加をしている。	行政からは推進会議への参加協力を得ている他、管理者は内容に応じ市や支所に相談を行いアドバイスや指導を受けている。今後も地域の中の事業所として行政と連携を図りながら地域貢献に努めたい意向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待予防委員会の毎月の活動で身体拘束しそうな利用者様への確認用紙の記入。職員の虐待予防確認用紙への記入。虐待事例についての検討会と改善についての会議と記録を職員で実施し、毎月の職員会議で報告確認実施。	虐待やスピーチロックを含め拘束に関する研修会や会議の中で、拘束のないケアの実践について共有を図っている。また、身体拘束を行わないためのチェックリストを活用し自身のケアを振り返る機会を持っている。年間の計画の中にも、接遇や抑制・身体拘束に関する強化月間が設けられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上的内容にて実施したうえで、年に1度は施設内研修にて高齢者虐待について職員一人が研修発表を行うようにしている。また、施設外での研修が可能な時は職員が、参加できるようにし、報告書を提出してもらうようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度は施設内研修で職員一人が権利擁護と日常自立支援事業について発表するようにしている。また、6月4日に地域の他の病院にて成年後見人についての研修があり、職員が参加しその後に職員会議で発表している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎回、例外なく全ての利用者様や契約を代理できる方への施設説明や契約書、重要事項説明を読み上げて説明した上で契約をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ヒヤリ・ハット事故、苦情、感染予防委員会にて、毎月、家族参観を催して、施設内の様子を見学していただき、アンケートを記入してもらい、内容を職員会議時に発表してもらっている。また、契約前の問い合わせ表記、ケアプラン作成時の担当者会議での意見の反映、運営推進会議での利用者様の意見の反映など機会を設けている。	推進会議や家族参観後のアンケート、プラン作成時の話し合い時に意見や要望を聞き入れる機会を設けている。入居者の要望については日頃の関わりの中で確認し、要望へはできる限り早急な対応に努めている。公的機関の窓口については契約の際に説明を行っている。家族からの意見や提案・苦情については真摯に受け止め記録に残し、対応や改善策が検討され結果を申し立て者に報告している。	家族参観後のアンケートについては、全職員で内容について検討を行い、更に運営に活かされるアンケートに繋げていただきたい。今後も職員はゆとりを持った入居者・家族への対応を心がけることで、信頼関係も深まるものと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開いており、必要があれば意見を発言し、検討する機会を設けている。	職員会議をはじめ管理者は日々職員とコミュニケーションを図りながら、意見や提案を確認し個々の職員が持ち味を発揮できる環境整備に努めている。また、法人代表者も管理者と連携し職員の意見を共有し運営に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を作成し、職員会議時に職員に閲覧してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT・職能向上委員会を設けている。毎月職員一名がOJT計画シートを記入して6～9か月おきに内容の見直しができるようにしている。また、SWOT用紙に良い、悪いところを自分や他の職員からの意見を毎週1名記入し職能の改善が図れるようにしている。さらに施設外研修の参加についても計画し実施についての確認をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時々、グループホームの天草ブロック会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に問い合わせ表の記入や、他の施設からの申し送り等を聴き、早めのリスク回避や嗜好に応じた好ましい対応が出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や担当者会議前に家族と話し合い、将来どの程度までの介護を要求されるのか、また施設が対応できるかなどを話し合う機会がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に利用者様の必要な情報を前の施設の人から聴くときがある。また、ケアプラン作成のために必要なアセスメントを実施してもらうようにしている。そして、担当者会議の時に変更の必要などところを変更できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様のADLをを意識して、皿洗いや、洗濯物たたみなどを実施したり、見守りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や家族参観日を設けて、家族への施設内の介護に対する透明性を図る活動を行っている。また、家族会の時にアンケートを取り、職員会議時に発表している。そして、家族との外出をする時がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいるお店などへ一緒に出掛けている。また、家族参観日に家族との面会で日頃の利用者様の様子を確認してもらい、確りとした関係づくりを行っている。そして、隣接する施設へ友人や旦那さんに行き来してもらっている。	地域貢献を兼ねた商店や食事処の利用をはじめ、地元のお寺の住職による法話など継続された取り組みは入居者にとって馴染みの時間となっている。ホームは入居者にとって大切な家族や親類、知人との関係が途切れないよう面会や、隣接事業所を利用されている家族・知人の訪問の機会を支援している。昔ながらの町並みを眺めることのできるホームの環境そのものが入居者にとって心落ち着くものである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を配慮して、席の場所を考えたり、レクリエーションを通じて皆さんで楽しみ、お互いの健全な関係を構築するお手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設への橋渡しを滞りなく行った。また、行った後も様子をうかがったり、会いにゆく職員もいた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員が、各利用者様の対応を行い、昼のカンファレンス時に意見を出せて改善ができるようにしている。そこで、担当の職員次第だが、各利用者様の思いへの反映をできるようにしている。	職員は日頃から入居者との関わりの時間を心がけ、思いや意向の把握に努め、カンファレンスや会議の中で気づきや提案を出し合い共有を図っている。また、家族の訪問も多く、その際は入居者の状況を伝えながら、入居者の思いを確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを取り、利用者様に合ったケアプランを作成し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの変化、疾病やその変化については、Tカード対応や受診ノートへの記録と病院への申し送りを不備なく行えるようにしている。また、特記事項を個人ファイルへ記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが、家族や職員と話す機会や昼のカンファレンスを利用してケアプランを立てている。モニタリングも実施している様子。また、担当者会議の時に管理者から適切に生活相談としての助言を加えてケアプランを変更するときがある。	計画作成担当者は職員の意見や気づき、本人・家族や医師の提案を組み入れながら、本人の残存機能を活かせるプラン作成に努めている。また、家族に説明を行う場合もわかりやすさを心がけ、今後も本人・家族の意向の引き出しにも更に工夫をしたいと語っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を取っており、認知症の変化や周辺症状の変化について、委員会が活動しており、さらに、Tカードで個人の特別変化についての対応を明文化して、具体的に対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族参観日の開催、お盆のお寺参り、外食支援、買い物支援などを実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに協力してもらって交流をはかったり、地域行事にも参加するようにしている。保育園交流や買い物支援、敬老会の開催、など月行事活動員会によって記録が残っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常があれば内線連絡や通院申し送りに記録して、適切な医療対応が出来るようにしている。	現在、全入居者が母体医療機関をかかりつけとしており、定期受診には職員と共に歩いて敷地内の医療機関を訪れ、馴染みの医師による支援が行われている。入居者の病状によっては家族も立会い、受診内容を共有しながら連携を図っている。職員は、入居者の異変を早期に見極め母体へと繋いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診される際などに医療申し送りノートへ利用者様の変化などを記録し、看護師との連携が取れるようにしている。職員会議時に看護師の参加が時々ある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリー等情報のやり取りを行い、入院時利用提供表の作成をし状況把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書・重要事項説明書に重度化した方への対応方法や終末期の対応方法についての方針を掲げてはいはいるが、いまだに対応経験がない。	重度化や終末期に向けたホームの方針を明文化しているが、本人・家族との話し合いの機会はない。母体が医療機関であることから、家族の中には医療行為が日常的になった場合の移行先として母体を希望される方もおられるようである。管理者は「設備的、人的なものを含めて入居者にどこまで出来るか」と言った基盤が出来ていないと語っている。	今後、入居者の状況によっては医師を交えた話し合いの機会や、終末期支援の有無に関わらず高齢者に携わる事業所として、重度化を見据えたホームでの勉強会の開催にも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	7月にヒヤリ・ハット。事故予防、苦情、感染予防委員会活動の一環として、救急蘇生法として消防隊の方より講習を受けている。又、その月の職員会議にて転倒骨折対応と誤嚥窒息時の対応を施設内研修で実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月交互に火災避難訓練と火災通報訓練を実施している。5月と10月は隣接する施設と合同での火災消化避難通報訓練を実施する。	火災を想定した避難訓練と通報訓練を毎月交互に実施し、消防署指導による総合訓練を併設施設と共に年二回行っている。訓練には入居者も一緒に参加し、避難時間や経路の確認をしている。日頃より建物周りの安全点検や食品・水を備蓄として備え、各居室には懐中電灯を置いている。地元消防団に職員も在籍しており、今後は地域連携の必要性を課題としている。	先ずは地域に対して総合訓練時の事前の周知や参加の呼びかけにより入居者の避難後の見守りなどできることで協力が得られるような働きかけを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待予防委員会の毎月の活動で利用者様のプライバシーについての確認作業を行っている。また、契約時に重要事項へ個人情報とプライバシーについての対応を家族や利用者様に話している。	職員は入居者への対応を委員会の活動を通じ、言葉かけや表現が入居者を尊重したものになっているかを振り返っている。入居者自身が身だしなみを確認できるようにと購入された畳サイズの大型鏡は入居者や職員に好評である。守秘義務について職員と誓約書を結び、個人情報保護の同意書を家族と交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様とのコミュニケーションをとり、できるだけ本人の意思を尊重し対応が出来るようにしている。ケアプラン更新時や作成時に利用者様の意見を取り入れてもらうように心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず利用者様の希望を優先できるようにしている。又、ケアプランへ個人的な一日の介護計画を記入してあり、毎日その通りというわけにはいかないが目安として対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に大きな鏡を設置した。通院時や外出前に整容してもらえるとよい。また、化粧水を利用される方がおり、対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者様と食事をしている。米とぎや皿洗い等利用者様に手伝ってもらっている。時々弁当や外食で好きなものや珍しいものを食べれるようにしている。	入居者と職員は同じテーブルを囲み一緒に食事を楽しんでいる。検食者が味付けや量、硬さを評価し、入居者の好みと共に栄養室へ声を上げている。炊飯はホーム調理場で行い入居者が得意の洗米に関り、下膳や食器洗いなども職員と共にしている。目先を変え、時には弁当にしたり地域の食堂を利用し昼食やおやつ支援が継続されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日7回の水分摂取をしていただけるようにしている。個人記録への記録がある。夏時期に水分補給の強化月間としての特別取り組みをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯用の歯ブラシの使用をしている。又、週2回のポリデント洗浄を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンシートを使用しトイレ声掛け、誘導を実施し、個人記録を残している。	個々の排泄パターンを把握し、時間や様子を見ながら声かけや誘導により失敗を減らし、入居者の自信に繋がる支援を心がけている。トイレの清潔保持に努め入居者が気持ちよく使用できるよう早めの掃除を申し合わせている。夜間使用するポータブルトイレも入居者の安眠に配慮し、ころあいを見て支援するよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の実施、排泄状況の確認と服薬対応の実施。昼の体操を毎日実施している。食事は管理栄養士による栄養管理がしてある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好みの熱さや量で入浴してもらっている。あまり長風呂にはならないように心がけている。無理強いはせず、本人の好む時間帯をお勧めしている。	入居者の希望の時間に出来るだけ応じながら、チェック表を見て感覚が遠のかないよう配慮している。支援する中で入居者の好みの湯量や湯温を見極め個々に対応、しかりつけ医師より血圧など心配な点について指導を受け、入浴時間の調節をしている。入居者の中には入浴をした日であっても就寝前に自身で清拭をされる方もおられその方の習慣として大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日血圧を4回計り体温測定を行い、身体状況を観察しながら、湿度や気温を調節し、好きな時間帯に睡眠ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月服薬管理委員会活動を実施しており、処方の変更や残薬の確認、処方薬の確認を職員会議時に報告している。又、変更や疾病による調薬の依頼は受診申し送りノートと受診にて実施できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出支援の実施をしている。趣味のハーモニカ演奏やピアノ演奏、日曜日のカラオケ大会や嗜好に応じたレクリエーションなどを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月行事検討委員会の活動として、外食、買い物、そのほかに季節の地域行事などに参加できるようにしている。	行事委員が外出先をリサーチし、地域の行事やサロンへ出かけている。商店街での買い物支援や食堂でのおやつ・食事など馴染みの外出は続いており、入居者にしっかり定着している。母体医療機関への受診や近隣の散歩のおりには、玄関脇に設けられたたんこ型の長椅子が休憩所となり、行きかう車や季節の移り変わりを感じながら一時を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設の連携委員の事務にて管理していただいている。外食時などに使用している。また、施設のおやつを購入に利用者様と一緒に出掛けて、自分たちの好きなおやつを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや、暑中見舞い等の手紙を書いて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時代背景が同じような音楽をかけている。また、気温や湿度喚起に気を付けている。居室の掃除が毎日行っている。1カ月に1度は居室の大掃除を行っている。	決して広い空間ではないが、二階からの窓の眺めを楽しみながら食事を終えても、入居者はリビングに残りテレビや新聞を見たり、入居者同士で会話をしながら思い思いに過ごされている。廊下や浴室、トイレなどの共有部分は職員の手により小まめに掃除が行われ、入居者が過ごしやすい環境を整えている。	今後も共用空間への季節の花の取り入れや、杖を収納する箱にも職員の工夫に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性を考慮して食卓や外出を支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用された家具、布団、食器等を使って頂き居心地よく過ごしていただく努力をしている。	入居者が使い慣れた品がそれぞれに持ち込まれており、共有部分と同様職員の手で清潔に保たれている。入居者の身体状況に合わせてフローリングの部屋を畳敷きに変更するなど工夫している。入居者は窓からの景色も楽しみながら大切に使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたんでいただいたり、食器を片づけていただいたり、米をといで炊いていただいたりしたことを個人日誌に記入している。個室の寝台利用や畳利用について対応している。		